

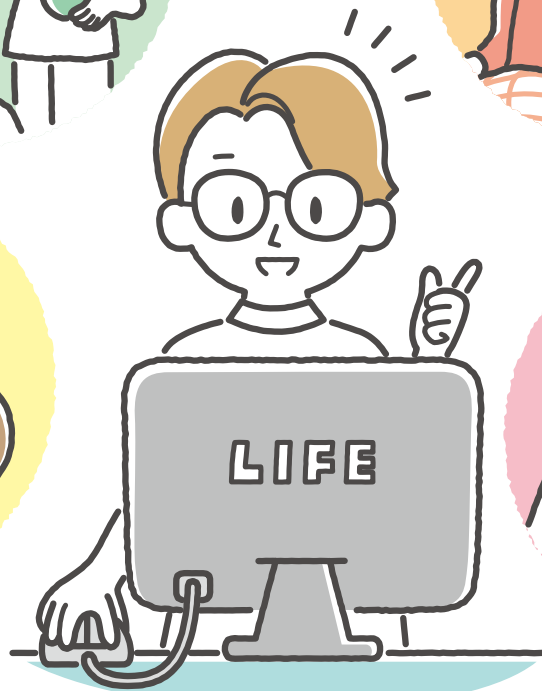
大阪の福祉を知るみんなの情報誌

ウェルおおさか

vol.143 2023年4月号
隔月発行(偶数月1日)

特集 科学的介護について

- 図書・資料閲覧室からのお知らせ
- 講座案内



科学的介護について

団塊の世代が後期高齢者に達する2025年を目前に控え、介護の世界ではいま、「科学的介護」に注目が集まっています。科学的介護とは、「科学的裏付けに基づく介護」のことです。これにより、介護される側にも、介護を行う側にもメリットをもたらすことが期待されています。

厚生労働省は、2021年度より、科学的介護を行うためのツール『LIFE』を運用しています。今回は、科学的介護とはどのようなことか、科学的介護を行うことで何が変わるのか、その先にある介護の未来について考えてみたいと思います。

科学的介護とは

科学的介護とは、数字データなどの客観的なエビデンスによって認められた介護サービスのことです。

「介護の現場」とよく比較される「医療の現場」では、早くから根拠に基づいた医療、EBM(Evidence Based Medicine)が採用され、「この病気には、この薬を処方し、このような体調管理をすれば、回復する」といった根拠に基づくサービスが提供されています。こ

れにより、医師は個人的な経験や勘ではなく、EBMをもとに患者を治療することができます。

一方、介護の現場では、介護サービスの効果について、明確に根拠を示すことができない点が問題視されてきました。今、提供している介護サービスが、利用者にとって良いのか悪いのか、正しく判断できなかったのです。

期待されることは

こうした問題を解決するために、介護現場でも根拠に基づいて介護を行う「科学的介護」(EBC: Evidence Based Care)が求められています。

科学的介護が実現することにより、客観的な数字で介護サービスの効果を測定でき、評価が目に見えるようになるため、介護サービスの質の向上が期待できます。また、科学的介護で、現場の効率化を図ることができれば、介護従事者に心のゆとりが生まれ、利用者一人ひとりにしっかり向き合うことができるかもしれませぬ。働きやすい職場に変わっていけば、介護職の離職防止にもつなが

ります。

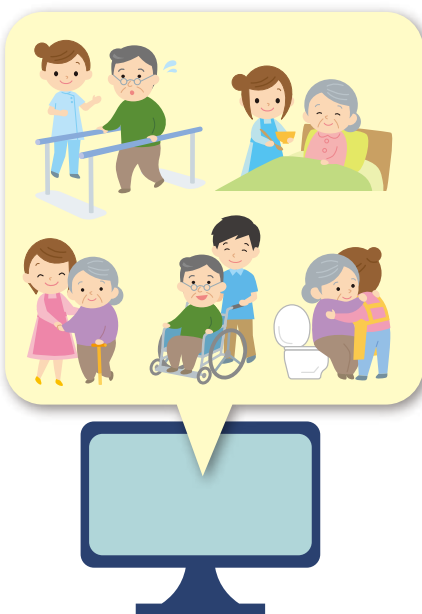
科学的介護がもたらす未来は、よいことばかりのようですが、実現までには一定の時間を要します。また、分析に用いられるデータの収集・送信などに時間を割かれ、現場に負担がかかることが懸念されています

「科学的介護情報システム(LIFE)」とは

2021年度から厚生労働省で推進されている「科学的介護情報システム(LIFE)」。

介護事業者が、利用者の状態やケアの計画・内容などのデータをLIFEに入力すると、収集されたデータが分析され、その結果が介護事業者側にフィードバックされます。フィードバックされた内容は、事業者が「提供していたケアが適切だったかどうか」を判断する材料となります。仮に、結果が思わしくない場合は、支援計画を見直すきっかけになります。

このように、科学的介護では「計画→実行→評価→改善」というPDCAサイクルを回すことにより、より高い成果を出すことが期待できるのです。



科学的根拠に お客さま、従業員の思いをのせて

社会福祉法人永寿福祉会 永寿特別養護老人ホーム 施設長 鹿島 基晴さん

「個別」と「根拠」を大切に

永寿福祉会の経営理念には、「お客さま一人ひとりが私たちの出発点です」との文章があり、それは、「一人ひとりのお客さまに寄り添いながら、ご要望を中心にヘルスケアビジネスの専門家として明確な根拠を持ったサービス」という風に説明されています。これは、約20年前、当時働いていた従業員たちが創造した言葉で、「個別」と「根拠」のある介護の実践を目標としています。

このことに対する、代表的な取り組みは、インターライ方式によるアセスメントに基づいたケアプランの作成と実践です。インターライ方式のアセスメント表には、機能面、精神面、社会面、臨床面などにおいて330以上のチェック項目があります。これをケアワーカー、栄養士、看護師、理学療法士などの専門職がそれぞれ入力し、ケアマネが統括します。すると、「身体活動の推進」「認知低下」「気分」「コミュニケーション」などの課題領域として、対象者一人ひとりの状態に応じたものが、自動的に抽出されます。

「インターライ方式のアセスメントを実践することでお客さまとのコミュニケーション自体が、アセスメントとなり、お客さまを深く知るきっかけになっています」と施設長の鹿島基晴さん。

お客さまが「がんばってみよう」と思ってもらうために

インターライ方式で抽出された課題をテキストに記載されたガイドラインに基づき、多職種協働の担当者会議で課題解決に向けたケアプランについて検討します。

難しいと感じるのは、お客さまご自身やご家族等が考える課題と私たちが導き出した課題に乖離がある時です。

「例えば、検討の結果、お客さまご自身で食事をされると、もう少し手を体に近づければ可動域が広がる、もしくは維持できることがわかったとしても、ご本人が『しんどいから、やって』と言われたとき、どうするか。私たちは、気分やコミュニケーションのアセスメントの段階で聞き取った情報をもとに、どうすれば受け入れてくださるかなどを検討しながらご自身でやってみようと思っただけの関わりを大切にしています。」

日常のケアにおいて、お客さまの要望や思いを大切にしている従業員ほど、主観的なケアを行ってしまうことがあります。

同法人では、お客さま・そのご家族、そして従業員の思いを大切にするためにも、「まずは、客観的なアセスメント、そこから導き出された課題を解決していただけることを前提にして、その上にお客さまの思いや従業員の思いをのせていくことで、「個別」と「根拠」に基づいた科学的介護を推進しています。

効率化だけでなく、 尊厳を守るICT

インターライ方式が示したお客さま一人ひとりの課題を解決するためにも、同法人は、新たな取り組みを積極的に採り入れています。

例えば、ノーリフトケアの取り組みの一つとして導入しているレイザープロという機器についてはお客さまも従業員も安全に移動できるだけでなく、車いすのお客さまが機器に支えられながら立位を保った状態

で移動することになるので、生活上のリハビリとして有効です。

「『視点が変わった』『立って移動するから見晴らしがいい』と大変好評です。自分で立ちたい・歩きたいというお客さまの願い



を叶えることにも繋がりました」

入浴については、微細なミスト(霧)が肌の中に入り込んで汚れを浮き出すナノミストバス・キャリアタイプへの切り替えを進行中です。従来の入浴より移動が少なく、介助者の負担を減らすだけでなく、ミストで体が綺麗になり、保清ができます。入浴中は肌を見ることがないので、お客さまの尊厳を保つことができ、双方が安心できます。

在宅復帰の思いを 忘れてはいけない

特養は終の棲家のイメージがあります。しかし、どんな家庭の事情等があったとしても、ご本人さまは、家に帰りたと思っています。ということもあるのではないのでしょうか。

「介護保険の介護老人福祉施設の目的に明記されている通り、特別養護老人ホームに入所していても、お客さまの在宅復帰を念頭においたサービスを提供できる施設を目指しています。お客さまの真の思いを私たちが無視してはいけません。お客さまが、家に帰りたという自ら考え、選択されたなら、それを科学的介護や多職種連携、ご家族との協力で実現していくのが私たちの役割と考えています」

人口減少に伴う将来の 介護人財の不足を見据えて

施設では、ほかにも介護ソフトで記録の効率化を図ったり、骨伝導のマイク付きイヤホンで直接入力できるソフトの導入を予定しています。また、次年度にはデイルームや廊下などに設置したカメラは、見守りの効率化に加え、万一、転倒事故などがあった際にも、ご家族へ説明できるように原因究明のモニターとして活用していく予定としています。

「将来的には、人員配置が現在の3対1から変更になるかもしれません。これを見据えて、ケアの質を落とさずに効率化できる環境や体制を整え、従業員が誇りを持って健康に長く働き続けることのできる職場づくりに力をいれています」



手段が目的にならないよう、科学的介護の導入は慎重に進めたい

社会福祉法人 優心会 理事長 垣谷 隆太さん



デートするために、研修や学びを重ねていくことは、非常に合理的でいいお話だと思いました」

優心会では、科学的介護を法人内で広める際は、まず、限定した職員を対象に研修を受けてもらい、活用できるかテストしながら、全職員向けへと前向きに検討したいと考えています。

数値化が入居者、職員のやりがいに

同施設における入居者の在院日数は平均3.6年。その間、徐々にADLが落ちてきて、最終的には看取りとなる場合が多いため、職員もやりがいを見出しにくい側面があるそうです。

「在宅が難しい方が施設に入られるケースが多いなか、数値で測れるADLの改善をどこまで望まれているかという問題があります。ただ、改善しなくとも、できるだけ安定的に維持することができれば、数値化は入居者さまにも職員にもやりがいをもたらすと思います」

垣谷さんは、ケアカンファレンス・モニタリング会議での活用が期待できると話します。「リハビリの専門職員がマンツーマンでついているわけではないので、生活動作のなかでリハビリを行っていただかなければなりません。ご本人のやる気が大切になってきます。目に見える数値化は、その力になると思います」

その人らしい生活の場を創る

優心会では、ユニットケアの理念に添って、在宅に近い居住環境のもと、入居者一人ひとりの個性や生活を尊重し、また、入居者同士が人間関係を築きながら、その人らしい生活の場になるよう環境を整えています。

例えば、外に出たいときに出られるように玄関ドアにロックはかけず、館内ではエレベーターの使用も自由なので、入居者は、他階の入居者を訪ねたり、1階事務所の優ちゃん(小型犬)と遊んだり、自動販売機で買い物をしたりすることができます。

「入居者さまが主体となって、『仲良しの会』を結成し、約100人分のお好み焼きをふるまわれるなど、職員を巻き込んでパワフルに活動されている方もいます」とは理事長の垣谷隆太さん。同施設では入居者の思いに添ったユニットケアが実現しています。

こうした環境がベースとなっているため、科学的介護のひとつと考えられる、ICTによる見守りは、必要性を感じる一方で、採り入れにくいようです。

「カメラでモニタリングしたり、センサーで動作のデータを獲得したりすることは、今後の事故やトラブルを未然に防ぐ効果があると思います。しかし、入居者さまにとっては拘束や監視になるのではないのでしょうか」

施設の廊下やリビングには、緊急通報システムを除き、カメラやセンサー等は1台も設置されていません。

ケアする人が変わっても継続できる

科学的介護の受け入れに慎重な垣谷さんは、『LIFE』(厚労省が運用するデータ集積のツール)を採用した科学的介護についての研修で、国際医療福祉大学大学院・石山麗子教授(P.4)の講義を受ける機会がありました。

「科学的介護の第一段階は、統一された共通のものさしを持つことという話、科学的介護の基礎の基礎ですが、非常に重要だと思いました。当施設では、入居者さまには、自宅ですべての湯呑を持ち込んでもらうため、サイズもまちまちですが、それぞれ何cc入るのか記録はとれていました」

同法人では、介護の方法を職員間で統一するために、移乗支援、食事支援など動画を撮影し、共有していますが、限界を感じているそうです。しかし、「ものさしを統一しておくことで、一定の質を保ちながら継続的に提供できます。職員の入れ替わりや異動などでケアする人が変わっても、入居者さまは安心してまかせられます」

一方で「職員はものさしを決める意味を考えたり、どうすれば最大限の効果が出るのか、客観的な評価に基づき、検討したりすることができます。日々、アップ



科学と利用者の価値観は介護の両輪

国際医療福祉大学大学院 教授 石山 麗子さん



科学は身近にあるもの

科学を上手に活用すれば、誰もが安全に速く行えることがあります。火を熾すことも科学の一つです。

どの方法を用いれば、どれくらいの確率でいい効果が得られるかを明らかにすることで、目的を達成するために、すべての人が一から試行錯誤する必要もありません。得られた成果を標準化し、共有すればいいのです。科学は、プロセスが明瞭で適切、再現性が高いため、継続して行うことや教育が可能となります。

介護も科学の力を借りれば、誰がそれを行っても一定の水準の判断・実行・評価ができるようになります。これまでは、利用者さんの身体的、生活的な情報を収集するときから、科学的とはいええない状態でした。

例えば、「水分とっていますか」とたずねたとき「とっています」という返答があっても、それだけでは情報不足です。いつ、どのような水分をどれくらい、どの器でとっているのかによって大きく変わるからです。体重も同様に「〇〇kgです。」といわれても、測った時間帯や、着ている服で数値の意味は異なります。同じ条件で測らないとデータとしては使うことはできません。データの条件がそろわないため、正確な分析にならず、ケアプランに落とし込む際、専門職の経験値に頼らざるを得ませんでした。

「ものさしの統一」から始まる

科学的介護を実現するには、3段階を経なければなりません。

第1段階は「ものさしの統一」です。何で測り、何で評価するか。多くの介護施設は、利用者さんの状態をアセスメントシートで評価してきたと思いますが、評価ツールがまちまちでは一緒に使うことができません。正確な分析を行うには、全国共通の介護における評価指標が必要です。評価指標の目的、評価方法を誰もが理解し、活用できるようになり、ようやく科学的介護にとりかかる準備が整ったといえます。厚生労働省が

運用している『LIFE』は、科学的介護をつくるためのデータを収集・集積するツールのことをいいます。

第2段階は「データを読み解く」ことが必要になってきます。LIFEを採用している事業所には、全国的なデータがフィードバックされているはずですが、全国平均からみて高いか低いといった単純な比較ではなく、どれとどれのデータを合わせて、どう解釈するかが重要です。そして、データの解釈と現実とを突き合わせて、さらに分析を深めていきます。

人間しかできないことは機械に譲らない

第3段階は、第2段階で得られた分析結果を「理論をもとに実践に活かす」こと。ここで重要なのは、科学的介護だけで利用者さんへのアプローチ方法を練ることができない点です。利用者さん一人ひとりの身体状態や生活状況を詳らかにしたなら、利用者さんの価値観も一層、深めて聞いていく必要があります。施設の人なら、家族よりも本人のことを知っている自負があるかもしれませんが、家族には施設の人よりも本人を知っている自負があります。

施設入所前の生活習慣、好みやエピソード等、今なぜこの行動が起きているのか、なぜその食べ物を食べないのかなど、細かく聞いてみるといいのです。利用者の嗜好や過去のエピソードを家族と共有することは、家族支援にもつながります。根掘り葉掘り聞かれるので嫌がられると思ったけれど「ここまで聞いてくれる人はいなかった。ありがとう」と関係が深まった例もあります。このように生育歴、生活歴を考慮しながら価値観を把握しアプローチ方法を練っていきます。

問題の原因を探す時には科学の力を借りることが多いですが、介護は生活そのものですから、いざ対策を考えようとすると、その人の価値観は欠くことのできない重要な要素となります。

科学で取り扱える範疇は、科学に任せられた方がいいですが、それとは別に、感情など確かに存在していても、手に取った

り、数字にしたり、変化が見えにくいものは、人間にしかできないのです。価値観、その人らしさや、その家族らしさは、ものさしで測れるものではありません。

科学的介護が始まっても人間にしかできないことがあり、それは譲ってはいけません。科学が最上位ではありません。科学と利用者の価値観は、介護の両輪です。

未来の利用者に役立つ礎として

私は、全国的には、科学的介護はまだスタートラインにも立っていないと思います。なぜなら科学的介護のスタートラインとは、日本の介護職全員が、ものさしの使い方、データの解釈の方法、戦略の練り方を学習した状態のことを指すと考えているからです。

LIFEに送るデータ収集だけでも、現場の職員にとっては負担が増えるでしょうし、いま目の前の利用者の何に役立つのか疑問を抱くかもしれません。でも、3年後、5年後の将来の利用者に役立つ礎をつくると考えてみてください。データはたくさん積み重なるほど分析の精度も上がります。利用者も、自分が受けている介護の情報を通じて、自分だけでなく、我が子も将来受ける介護の明るい未来を創る営みに協力していると自負をもってもらえたらと願います。

介護業界が人材不足に陥るなかで、利用者は誰でも一定以上の満足いくケアを受けたいと考えています。誰かが個人的かつ経験的につかんだコツだけでなく、科学的に効果が明らかになっている方法でケアできると思えば、介護するほうも、されるほうも安心感があるのではないのでしょうか。

新たな人材「アシスタントワーカー」

アシスタントワーカーとは？

介護施設等において掃除や食事の片付け、洗濯、物品の補充等、直接介助に携わらない業務を担当する“介護職場の人材”です。

1年間お疲れ様でした！

2月16日(木)に、令和4年度最後となる集合研修を当センターにて実施しました。研修では、アシスタントワーカー事業の1年間の取組みと成果について、実際に取り組まれた各施設の担当者の方から発表を行いました。現在のアシスタントワーカーの採用数や実際の仕事内容、事業に取り組んで良かった点、今後の課題点など、各施設それぞれ状況は三者三様ですが、適宜、質疑応答も交えながらの発表となりました。

発表内容について(一部)

《良かった点》

- 業務仕分けをすることによって業務の整理ができた。
- 作成したマニュアルは新任職員にも使うことができる。
- アシスタントワーカーが入ったことにより業務に余裕ができた。

《今後の課題》

- 伝わりやすい仕事内容の説明方法(未経験の方でも勤務してから不安が無いように)
- 採用がゴールではなく、その後も定着していただける仕組みづくり

また、1年間を通して受け入れ体制の整備、人材の育成に取り組んだことを証する“修了証書”の授与を行い、最後には全員で記念撮影をしました。

1年間を通じて、新型コロナウイルス感染症の拡大等もあり、なかなか思うようにアシスタントワーカーの受入れ整備が進まない時期もありましたが、1年間の締めくくりとなるような、本当に素晴らしい最後の集合研修となりました。

取り組まれた施設の皆さま、本当に1年間お疲れ様でした。そして、本事業での経験を活かして、福祉・介護人材がさらに輝く職場となることを期待します。



アシスタントワーカー採用についてのお問合せは、下記までお願いします。

令和4年度 アシスタントワーカー導入施設

社会福祉法人 亀望会

特別養護老人ホーム
江之子島コスモス苑

〒550-0006
大阪市西区江之子島1-8-44
☎06-6225-2662
FAX06-6225-2663

公益財団法人 淀川勤労者厚生協会

介護老人保健施設
よどの里

〒555-0033
大阪市西淀川区姫島2-13-20
☎06-6473-5152
FAX06-6473-0151

社会福祉法人 今川学園

障がい者支援施設
今林の里

〒546-0001
大阪市東住吉区今林3-1-87
☎06-6791-1211
FAX06-6791-5700

第17期 市民後見人養成講座 オリエンテーションを開催します



判断能力が十分でない方の生活を身近な立場で支援し、だれもが地域で安心して暮らせるよう成年後見人として活動するボランティアを養成する「市民後見人養成講座」を開講します。講座開講にあたり、その趣旨・内容を説明するため、オリエンテーションを開催しますので、ぜひご参加ください。

日時・会場 ● 大阪市社会福祉研修・情報センター
第1回 5月13日(土)14:00~16:00
第3回 5月20日(土)14:00~16:00
● 会場:大阪府社会福祉会館
第2回 5月18日(木)18:30~20:30
第4回 5月24日(水)14:00~16:00
(各回100名定員 ※先着)

対象 大阪市在住または在勤で、社会貢献に意欲と熱意のある24歳以上68歳以下の方(2023.3.31現在)
※後見人養成研修を実施する団体に所属している方、または親族以外の方の後見人として活動している方は対象となりません

内容 ①成年後見制度の概要と市民後見人の役割
②市民後見人養成講座の受講について など

申込 住所、名前、年齢、電話番号、参加希望日(第1・2・3・4回のいずれか)を記載のうえ、ハガキ(締切日必着)・ファックス・メール(yousei@shakyo-osaka.jp)、またはGoogle フォームから、お申し込みください。
※参加証は送付いたしません。定員超過の場合のみ、ご連絡いたします。

締切 各回2日前まで

問合せ 大阪市成年後見支援センター

(〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20)
☎06-4392-8282 ☎06-4392-8900

Google フォーム▶



福祉・介護の仕事の“やりがい・魅力”を伝える エピソード作品に表彰を行う 『きらめき大賞表彰式2022』を 開催しました。

日時 1月28日(土)11:00~12:00

会場 大阪市社会福祉研修・情報センター

当日は受賞者4名の方にお越しいただき、表彰を行いました。受賞された皆さま、おめでとうございます。そしてご来場いただいた皆さま、ありがとうございました。受賞作品をご覧いただき、より多くの方に福祉・介護のやりがい・魅力を知っていただければ幸いです。



最優秀賞

『ふわっとした甘いお好み焼きに込められた思い～体が動かなくても、声がかすれても、協力すれば何でも出来る～』

● 社会福祉法人優心会 特別養護老人ホームこうのとり 中谷 優女 様



優秀賞

『光』

● 社会福祉法人自彊館 障害者支援施設エフォール 杉山 義彦 様



優秀賞

『やりたい事、出来る事(ジョブ)を増やす(足す)その先へ』

● 株式会社エフリング ジョブタス長吉長原東事業所 工藤 智史 様



特別賞

『「心にゆとり」を大切に』

● 社会福祉法人日本ヘルンケラー財団 福祉型障害児入所施設平和寮 村田 佳緒梨 様



特別賞

『思いはひとつ』

● 社会福祉法人秀明会 グループホーム・小規模多機能ホームあす～る豊新 徳永 優子 様



受賞5作品はこちら!
QRコードにアクセスすると
作品をお読みいただけます

講座案内

研修につきましては、
次の措置を講じたうえで
実施する予定です。

- 空調設備により常時換気を実施しています。
- 休憩時間等には換気をすることがあります。
- マスクの着用については、個人の判断に委ねますが、福祉・介護関係者の参加も多いことから研修中はマスクを着用することを推奨します。
- 消毒液を常備し、手に触れる箇所の消毒に努めています。

●市民向け講座

市内在住、在勤、在学の方

講座名	日時	受講対象者	講師	内容	その他
介護実習講座 入門コース	①土曜日コース 6月10日・17日・ 24日 14:00～16:00 ②水曜日コース 7月5日・12日・ 19日 10:00～12:00 開講日の約1週間 前に受講証をお 送りします	大阪市内に在住・在勤・ 在学の方で、高齢者の介 護に関心があり、指定さ れた日程を休まず受講 できる方 ※現在介護のお仕事を されている方は、ご受 講いただけません	専門学校講師、介護福 祉士など	初めて介護をされる方を対象に、家庭 での介護の知識や技術を体験いただい て、介護への関心や理解を深めます。 【テーマ】 ①移動、車いすの使い方(予定) ②食事介助・衣服交換(予定) ③清潔介護(予定)	定員:各コース 20人(先着順) 受講料:500円 (資料代) 受講当日に現金で 申し受けます

●福祉従事者向け研修

申込み多数の場合は抽選です。締め切り後に、事業所あてに決定通知を送付します。

研修名	日時	受講対象者	講師	内容	その他
介護職員研修 介護職援助の技術編 [ステップアップ介護技術]	6月8日(木)・15 日(木) 10:00～16:30	大阪市内の福祉関係施 設・事業所で高齢者等の 介護に従事し、介護実務 年数がおおむね3年以 上の介護職員	一般社団法人 幸せ介護創造ファクトリー 代表理事 高山 彰彦	施設や在宅など、さまざまな介護現場 で求められる介護技術等について、基 本を確認し、さらなる理解を深め、より 安心、安全な手法について学びます。 ①移動介助 ②食事介助、排泄介助	定員:16人 締切:5月19日(金) 受講料:6,000円
介護職員研修 介護職援助の基本編 [介護職のための記録の 書き方]	6月22日(木) 10:00～16:30	大阪市内の福祉関係施 設・事業所で高齢者等 の介護に従事する介護 職員	元有料老人ホーム施設 長・元看護学校教員 榎園 美知子	施設や在宅など、さまざまな介護現場 で求められる介護記録について、基本 を確認し、さらなる理解を深め、利用 者サービスの向上をめざします。	定員:24人 締切:6月2日(金) 受講料:3,000円+ テキスト代1,650円
接遇マナー・電話応対研修	5月31日(水) 10:00～16:30	大阪市内の福祉関係施 設・事業所に勤務する職 員	Felien(フェリアン) 副所長 津村 薫	福祉・介護サービスの職場においても 顧客満足が求められているなか、接遇 マナーや電話応対は利用者や家族と の信頼関係を築くうえでとても重要 です。 接遇マナーや電話応対の基本を理解 するとともに、演習を通じて実践力の 向上をめざします。	定員:60人 締切:5月8日(月) 受講料:3,000円
ファシリテーション研修	7月4日(火) 10:00～16:30	大阪市内の福祉関係施 設・事業所に勤務する職 員	Felien(フェリアン) 副所長 津村 薫	意見が出ない、論点がずれる、いつも 同じ人ばかりが発言する、何も決まら ず時間だけ費やすというような非効 率で成果のない会議を改善するため、 場を活性化し、メンバーそれぞれの持 ち味を活かすファシリテーションの技 術を学びます。	定員:60人 締切:6月9日(金) 受講料:3,000円
求人力・広報力向上研修	6月28日(水) 13:30～16:30	大阪市内の福祉関係施 設・事業所に勤務する職 員	大阪城南女子短期大学 現代生活学科 教授 前田 崇博	福祉への就職を希望する人に対して、 効果的な求人情報の提供や発信の方 法について学びます。	定員:30人 締切:6月16日(金) 受講料:無料

★日程及び締切日は、主催者の都合で変更する場合があります。

●福祉従事者向け研修の申込み方法▶当センターのホームページから申込みか、申込用紙をダウンロードしてFAXでお申込みください

申込・問合せ先 大阪市社会福祉研修・情報センター 〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20
☎06-4392-8201 ☎06-4392-8272 🌐https://www.wel-osaka.com ✉kensyu@shakyo-osaka.jp

図書・資料閲覧室からのお知らせ

図書・DVD新着情報

図書紹介

介護職が「働き続けたい」と思える職場のつくり方
事例演習で変わる!介護現場の心理的安全性

富永 真己 著
中央法規出版 2022年

人材不足に悩む介護現場のリーダー必読!介護の職場環境を左右する心理的安全性について事例とともに解説し、心理的安全性と効果的な話し合いのコツを学ぶ職場内研修の進め方を紹介。



おおいたの子ども家庭福祉
子育て満足度日本一をめざして

井上 登生 ほか 編著
明石書店 2022年

子ども家庭福祉分野でのポピュレーションアプローチから要保護児童対策までの先駆的な取組を「子育て支援」「相談支援」「社会的養育」に分けて、その事業や活動の内容と意義を紹介。



支援のための認知行動療法
こころに寄り添う

福井 至 ほか 監修
ナツメ社 2022年

医療、企業、学校、SNSなどでの認知行動療法のとり入れかた、認知や行動を変える技法と、その進め方などをやさしく解説。心理専門職でない方にもわかりやすく、相談者とのやりとりの具体的なイメージやよくあるケースへの対応策なども紹介している。



介護事業DX 業界標準の指南書
(改革・改善のための戦略デザイン)

齋藤 直路 著
秀和システム 2022年

業務効率化、サービスの質向上を実現するための介護事業におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)の指南書。事務作業のペーパーレス化、見守りや感染症対策への活用、従業員の教育・研修方法、補助金等の活用など、先行事例をあげながら具体的に解説。



DVD紹介

わたしと人権 第1巻

ドラコ 26分 2020年

人権問題に直面したとき、自分ならどうするかをさまざまな事例を通して考えるDVD。

- 1.ジェンダー
- 2.障がい者
- 3.セクシャルハラスメント
- 4.高齢者虐待
- 5.同和問題
- 6.発達障がい
- 7.こどもの虐待
- 8.精神疾患



梅切らぬバカ

ハピネット 77分 2022年

山田珠子は、息子・忠男と二人暮らし。ある日、グループホームの案内を受けた珠子は、忠男の入居を決める。しかし、忠男は環境の変化に戸惑い、施設を抜け出し…。老いた母と自閉症の息子が地域コミュニティとの交流を通して自立の道を模索する姿を描いた人間ドラマ。



不安の正体
精神障害者グループホームと地域

太郎次郎社エディタス 65分 2021年

近年、精神障害のある人たちのグループホームが各地にできているが、それに伴い、「施設コンフリクト」と呼ばれる開設反対の運動も生じている。反対住民の声と関係者の意見、グループホームに入居している方々の生活やインタビューを通して、その実像を見つめる。



よみうり回想サロン Vol.4
昭和から平成編1

読売新聞社 75分 2019年

懐かしい新聞記事や写真、ニュース映像を題材に、昔を振り返るDVD。家庭でのだんらんや、サークルや介護施設のレクリエーションに利用でき、進行役のためのガイドブック付き。



大阪市社会福祉研修・情報センター2階の図書・資料閲覧室では、福祉に関する図書・DVD・ビデオなどを、無料で貸出しております。(認知症、介護技術、手話のDVDや、福祉の関係の雑誌などが充実しています。)



●図書・約18,700冊 ●DVD・約1,000本 ●雑誌・約25種類

開室時間/月曜日～木曜日・土曜日 9:30～17:00、金曜日 9:30～19:00

貸出期間/2週間(図書・雑誌等は5冊、DVD・ビデオは5本まで)

利用資格/貸出し期間(2週間)内に、来館しての返却が可能な方

※郵送での返却はできません

※初回の登録時には、住所・名前などの証明ができる本人確認書類(免許証・保険証など)をご持参ください

休室日/日曜日・祝日(土曜日は除く)・年末年始

問合せ先/☎06-4392-8233 お電話で図書・DVDの予約も承ります



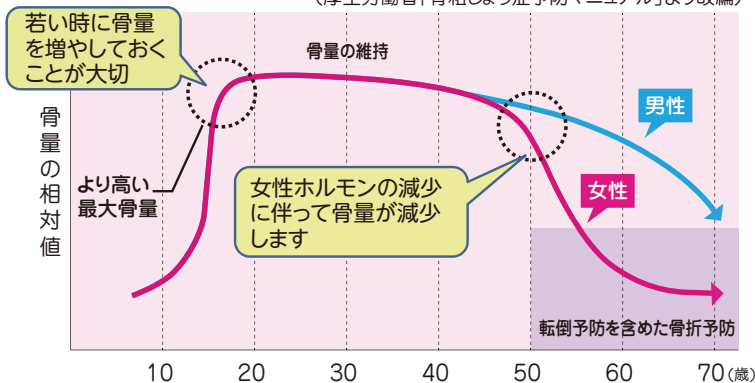
大人女子は注目! 40歳代からの骨事情



女性は閉経後急激に骨量が低下します!

●ライフステージごとの骨粗しょう症対策

(厚生労働省「骨粗しょう症予防マニュアル」より改編)



大阪市骨粗しょう症検診

- 対象 / 18歳以上の大阪市民
- 方法 / QUS法(超音波)
- 日程 / 「大阪市ホームページ」または下記まで
- 場所 / 各区保健福祉センター等
- 申込 / 予約制。下記までお電話ください。



詳細はこちら▶



裸足になって片足を入れるだけ

近くて便利

無料

夜間・休日も実施あり

結果はその場で

問い合わせ・申し込み先 各区保健福祉センターの電話番号は「4ケタ△△△△-9882」です

北区	6313	都島区	6882	福島区	6464	此花区	6466
中央区	6267	西区	6532	港区	6576	大正区	4394
天王寺区	6774	浪速区	6647	西淀川区	6478	淀川区	6308
東淀川区	4809	東成区	6977	生野区	6715	旭区	6957
城東区	6930	鶴見区	6915	阿倍野区	6622	住之江区	6682
住吉区	6694	東住吉区	4399	平野区	4302	西成区	6659

その他にも検診を実施しています!

胃がん検診・大腸がん検診・肺がん検診・
乳がん検診・子宮頸がん検診・
前立腺がん検診・歯周病検診

詳細はこちら▶



大阪市健康局健康づくり課(成人保健) ☎06-6208-9943

今月の自助具 / しっかりと握れる杖グリップ

主な適応疾患・対象者 ▶ 高齢者や身体障害のある方で、歩行時に杖を使う方

機能・特徴

- 使用者の握り手を写し撮って造形したグリップ
- コルク素材で手触が良い
- 突いた時に手のひらに痛みや疲れが出にくい

使い方

- バランスのとれた、より良い歩行のサポート杖として使う



資料提供・問合せ ▶ 特定非営利活動法人 自助具の部屋

☎06-4981-8492 (月・水・金 10:00~15:00)

NPO自助具の部屋ホームページ▶



健康生活 応援グッズ

「歩く」を安全に

大きめの車輪で
安定の押しやすさ



●シンフォニーAR

軽量タイプの前腕支持型歩行車。肘置きが柔らかいウレタン素材なので、安心して身体をあずけられます。折りたたみレバーを上げるだけで簡単に折りたたみ、折りたたんだ状態でも自立します。

さらに使いやすく
パーキングロック機構がついて



●アルコールSK型パーキングロック付

室内用の馬蹄型の歩行器にパーキングロックが付きました。簡単に本体を固定できるので、利用者様・介護者様ともに安心してご利用できます。

狭小スペースでも使用できる
室内型歩行車



●スワリナ

前輪後輪360度キャスターで、スムーズに動かすことができます!その場で旋回もできるので、小さなスペースでも歩行がラクラク。車体内スペースが広いので、立っても座っても使いやすい。

問合せ

公益社団法人関西シルバーサービス協会
介護情報・研修センター福祉用具展示場

〒542-0012 大阪市中央区谷町7-4-15

大阪府社会福祉会館1階

☎06-6763-1480

http://kansil.jp

ウェル おおさか 大阪市社会福祉研究 第46号 「研究論文」及び「実践報告」募集



年刊研究誌「大阪市社会福祉研究」では、大阪市内で社会福祉に関する活動を行っている団体、グループ及び個人が自発的に研究活動を行い、その成果をまとめた「研究論文」及び「実践報告」を募集しています。次の募集要領を確認のうえ、ご応募ください。

【募集範囲】

- ①大阪市社会事業施設協議会に加盟する各施設の職員
 - ②大阪市社会福祉協議会及び各区社会福祉協議会の職員
 - ③大阪市福祉局・子ども青少年局及び各区保健福祉センターの職員
 - ④その他、大阪市内で社会福祉に関する活動を行っているグループ、個人などで「大阪市社会福祉研究」編集委員会が認める者
- * いずれも、個人による研究のほか、グループによる共同研究、共同執筆によるものも可とします。

【原稿内容】

- ①テーマは「社会福祉」の範囲とします。
- ②研究論文、研究ノート、実践報告等、福祉の実践のうでで生起する諸問題について、その解決のための示唆や方向づけを与えるものとします。
- ③原稿は、未公開(未発表)のものに限ります。

【原稿字数】

参考文献・図表等も含め、18,400字以内(パソコンで作成された原稿)とします。

【応募方法】

所定の応募用紙により、**5月31日(水)**までに大阪市社会福祉研修・情報センターへ論文テーマ等をお送りください。掲載候補となったものについて、あらためて「執筆依頼」をお送りします。原稿の締め切りは**7月20日(木)**とし、提出論文から編集委員会にて審査(査読)のうえ掲載論文を選定します。

【その他】

- ・「大阪市社会福祉研究」への提出論文については、政治的・宗教的活動に使用しないこととします。
 - ・「大阪市社会福祉研究」に掲載された論文及び実践報告について、次のような観点から審査し、優秀と認められた場合に、同心会より研究奨励賞、研究努力賞、会長賞が授与されます。
 - ・各賞について、該当者なしの場合もあります。
- なお、大学教員その他専門家との共同執筆による論文等は、選考の対象外となります。
- 〈審査項目〉 (1)継承性 (2)独自性(重点評価項目)
(3)波及性(重点評価項目) (4)客観性 (5)協同性 (6)構成員

●申込先・問合せ先▶

大阪市社会福祉研修・情報センター

〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20 ☎06-4392-8201 ☎06-4392-8272

✉kensyu@shakyo-osaka.jp

チラシが作りたい
パンフレットが作りたい
カタログが作りたい
…でも、どうやって作ったらいいの?

それ、アド・エモンに
おまかせください

納得のご予算で

企画から取材・撮影・デザイン・
印刷・納品にいたるまで、あなたのイメージを
トータルでカタチにします。
下記まで気軽にご相談ください。

TOTAL CREATION
AD.EMON
株式会社 アド・エモン

〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-23 丸丹ビル306号
TEL:(06)6358-1010 FAX:(06)6358-1011 E-mail:info@ad-emon.com
<http://www.ad-emon.com>

(広告)

大阪市社会福祉研修・情報センター

メンタルヘルス相談

(オンラインでの相談も可能です)

疲れやすい、やる気が出ない、眠れない、
対人関係がうまくいかない…。仕事上の
ストレスなどから生じる悩みの相談窓口で
す。ご本人からだけでなく、同僚や上司の
方からのご相談も受け付けています。



相談・予約電話

秘密厳守 相談無料

ハローサンキュー

06-4392-8639

対象/大阪市内在住またはお勤めしている福祉職員

相談方法/電話・オンラインまたは来所

相談日時/毎週土曜日と第1・3水曜日

いずれも9:30~16:00

※予約に関する問い合わせは、平日でも受け付けています。

相談員/臨床心理士

詳しくはウェルおおさかホームページで▶
<https://wel-osaka.com/mentalhealth>



大阪市内の社会福祉施設を対象としたメンタルヘルス
に関する出張研修を行っています
当センターへご相談ください。(☎06-4392-8201)

CENTER INFORMATION

大阪市社会福祉研修・情報センターのご案内

開館時間 / 9:00～21:00まで(土・日曜日は9:00～17:00まで)

図書・資料閲覧室は9:30～17:00まで(月～土曜日) ※毎週金曜日19:00まで

休館日 / 国民の祝日(土・日曜日と重なる場合は除く)、年末年始(12月29日～翌1月3日)

項目	直通電話番号	お問合せ時間
会議室など利用の問合せ	06-4392-8200	9:00～21:00(土・日曜日は17:00まで) (会議室の申込・お支払いは9:30～17:00)
研修関係の問合せ	06-4392-8201	9:00～17:00
図書・資料閲覧室の問合せ	06-4392-8233	9:00～17:00

貸室ご利用の皆様へ

貸室予約がオンラインで24時間パソコンやスマートフォンから可能となりました。

ホームページの【貸室のご案内】よりログインし、ご予約ください。
初めてご利用される方は、事前にお問合せください。

ウェルおおさか 検索

利用申込の受付は6か月前からです。

利用日の6か月前(6か月前の同じ日)から、インターネットでの予約、または電話や窓口でご確認のうえ所定の用紙でお申込みください。

電話や窓口での受付は、9:30から17:00まで。

☎06-4392-8200 FAX06-4392-8206

※インターネットでの予約可能な期間は、利用日の6か月前から利用日の1週間前までです。

FAXでの申込み可能な期間は、利用日の6か月前の9:30～利用日の3日前までです。

詳しくは、ホームページの【貸室のご案内】をご覧ください。



■会議室等の使用料

利用できる貸室および料金は、次のとおりです。ご予約は利用日の6か月前からです。

(単位:円)

室区分	利用人員のめやす	時間区分	午前	午後	夜間	全日
			9:30～12:30	13:00～17:00	18:00～21:00	9:30～21:00
4階	会議室	99	3,800	5,100	3,800	11,400
	会議室 東	45	1,900	2,600	1,900	5,800
	会議室 西	54	2,900	3,800	2,900	8,600
	介護実習室	36	5,700	7,600	5,700	17,100
	演習室	18	1,000	1,300	1,000	3,000
5階	大会議室	144	5,800	7,700	5,800	17,400

交通 / ご来所には【大阪シティバス】【JR】【地下鉄】をご利用ください

●大阪シティバス

【長橋二丁目】バス停すぐ
52系統(なんば～あべの橋)

●JR大阪環状線・大和路線

【今宮】駅から徒歩約10分

●地下鉄・四つ橋線・御堂筋線

【花園町】駅(①・②出口)から徒歩約15分

【大国町】駅(⑤出口)から徒歩約15分

所在地 / 〒557-0024 大阪市西成区出城2丁目5番20号

設置主体 / 大阪市

運営主体 / (指定管理者)
社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

電話 / ☎06-4392-8200(代表)

ファックス / FAX06-4392-8206

URL / https://www.wel-osaka.com

Facebookもチェック



【ウェルおおさか】に広告を掲載しませんか

詳しくはお問合せください…▶大阪市社会福祉研修・情報センター

☎06-4392-8201 FAX06-4392-8272 ✉kensyu@shakyo-osaka.jp

人権啓発キャッチコピー

【テーマ】障がいのある人をめぐる人権

バリアフリー 心の段差無くしたい

ペンネーム サユリちゃんさん(令和3年度「人権に関する作品募集事業」キャッチコピー 一般の部 佳作)